

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 設立20周年記念行事プログラム
～瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて～

日時：平成23年11月18日（金）

開 会：14：00～14：10

第1部：14：10～15：20

第2部：15：30～16：50

場所：大竹会館アゼリアホール

【開 会】

開会挨拶 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会
会 長 大竹市長 入山 欣郎

来賓挨拶 国土交通省 大臣官房技術参事官 福田 功

【第1部】講演会

(1) 20周年記念講演

「海の路ネットワークを活用した災害対応力の強化に向けて」

神戸大学名誉教授 井上 欣三 氏

(2) 特別講演

「地域活性化に向けた広島県の取組み ～瀬戸内 海の道構想～」

広島県知事 湯崎 英彦 氏

【第2部】「第5回瀬戸内海首長サミット」

<テーマ>

「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」

参加者 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会
会員首長、近畿・中国・四国・九州地方整備局
国土交通省 大臣官房技術参事官

「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 設立20周年記念行事 ～瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて～」開催報告

平成23年11月18日（金）広島県大竹市大竹会館アゼリアホールにおいて、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会設立20周年記念行事」が開催されました。

会員である13市町長をはじめ、近畿・中国・四国・九州の瀬戸内海沿岸地域から担当者、一般参加者等、約170名が参加しました。

行事は2部で構成されており、第1部では20周年記念講演として、井上欣三 神戸大学名誉教授から「海の路ネットワークを活用した災害対応力の強化に向けて」と題したご講演をいただき、特別講演として、湯崎英彦 広島県知事から「地域活性化に向けた広島県の取り組み ～瀬戸内 海の道構想～」と題したご講演をいただきました。

続く第2部では、13町長と近畿・中国・四国・九州の各地方整備局幹部に福田功 国土交通省大臣官房技術参事官を交え、「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」をテーマとして「第5回瀬戸内海首長サミット」を行いました。

詳細は以下のとおりです。



「開会」



開会に先立ち、去る3月11日に発生した東日本大震災により、尊い命を失われた方々を悼み、参加者全員で黙祷を捧げた後、協議会会長である入山欣郎 大竹市長より開会挨拶が行われました。

入山会長の開会挨拶では、東日本大震災の教訓を生かし、瀬戸内海沿岸地域で災害が発生した場合に、海ネット会員間で迅速かつ円滑に助け合うことの出来る、海ネットならではの有効な仕組みを、会員の皆様と考えていきたい等とご挨拶されました。

続いて、福田功 国土交通省大臣官房技術参事官の来賓挨拶があり、平成3年の設立当初のエピソードや、地域の先導的役割を果たして来た協議会への感謝、今回の記念行事を契機に海ネットの連携による防災ネットワーク機能の強化に期待している等のご挨拶を頂きました。



第1部 「20周年記念講演」 「特別講演」



第1部「20周年記念講演」では、「災害時医療支援船構想」を例に「阪神・淡路大震災、東日本大震災の教訓から、船の持つ輸送機能、生活機能、宿泊機能に着目し、災害時の活用をするためには、平時からの協力体制の構築が必要。海ネットには、「海の路」と「船」と「行政」がタイアップした社会的連携の基盤が整っており、海ネットのネットワークを災害時に有効に活用するために、目的指向型の運用を可能とする会員間、地域間連携のしくみの構築と平時からの準備が必要である」等、災害時の連携を確実なものにするためには、平時からの海ネットの連携が重要であるとのご講演を頂きました。

「特別講演」では、広島県が進める「瀬戸内 海の道構想」に関してご講演いただき、海ネットとの連携事例をご紹介いただきながら、世界有数の観光資源の集積地である瀬戸内を活かしたポテンシャルの高い観光産業による経済の活性化を図るため本構想に取り組んでおり、構想を実現するために瀬戸内エリアの「経済成長」と「地域資源活用」の2つの視点をもった「瀬戸内プラットフォーム」を作り、構想を推進していくとのご講演を頂きました。



第2部 「第5回 瀬戸内海首長サミット」について

安田実 中国地方整備局副局長の進行により、平時の観光振興等を通じた絆の重要性やフェリーや旅客船等の利活用、諸施設の現状把握とハード対策、ソフト対策の必要性など、東海・東南海・南海地震をはじめとする大規模災害への海ネットのネットワーク機能を活かした連携について、様々な議論がなされました。



議論の結果、13参加首長名で「第5回瀬戸内海首長サミット共同宣言 ～防災ネットワーク機能を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興～」が決議されました。

「第5回瀬戸内海首長サミット共同宣言 ～防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興～」

本年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の太平洋沿岸部を中心に未曾有の被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。お亡くなりになられた方に哀悼の意を表しますとともに、被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

他方、瀬戸内海沿岸域で暮らす我々は、この震災から数多くの教訓を得た。第一に全国津々浦々で暮らす我が国において、港・海・船の重要性が再認識された。第二に発生が懸念される東海・東南海・南海地震等への備えを早急に行う必要性を痛感した。第三に想定外の災害が生じた際の自助・共助・公助の重要性や、地域の絆を深化し災害対応力を強化していく重要性を学んだ。

今般、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の設立20周年を契機とし、瀬戸内海沿岸地域の広域的な絆をより一層深化し、「瀬戸内海」全体の観光振興や魅力発信を行うことが、同時に地域全体の防災力の強化に寄与していくことを新たに認識し、関係する地方整備局と協働して、以下の行動に取り組むことをここに宣言する。

1. 平素から、瀬戸内海の観光振興等を通じて海の路ネットワークの広域的な絆の深化、瀬戸内海地域全体の魅力発信に努めつつ、災害時には平時に構築された有機的な海の路のネットワークを活かして、相互に支援を行うことを目指す。この一環として、瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援協定（海ネット協定）の締結を進める。
2. 多島海である瀬戸内海の特徴を活かし、海の路を通じた非常時の緊急物資輸送や患者への医療支援等を円滑に行うため、平素は観光振興や市民の足として利用されているフェリーや旅客船等の多様な利活用についての検討を進める。

3. 今後、発生が懸念される東海・東南海・南海地震等、大規模な地震・津波への対応の一環として、堤防・護岸・栈橋等の諸施設の現状の把握に努めるとともに、必要に応じて所要のハード対策や防災訓練・防災教育等のソフト対策についての検討を進める。

平成23年11月18日

「瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会」設立20周年記念行事
第5回瀬戸内海首長サミット参加首長

兵庫県 南あわじ市長 中田 勝久

和歌山県 湯浅町長 上山 章善

広島県 竹原市長 小坂 政司

広島県 大竹市長 入山 欣郎

広島県 廿日市市長 眞野 勝弘

広島県 江田島市長 田中 達美

広島県 坂町長 吉田 隆行

山口県 宇部市長 久保田 后子

山口県 防府市長 松浦 正人

山口県 光市長 市川 熙

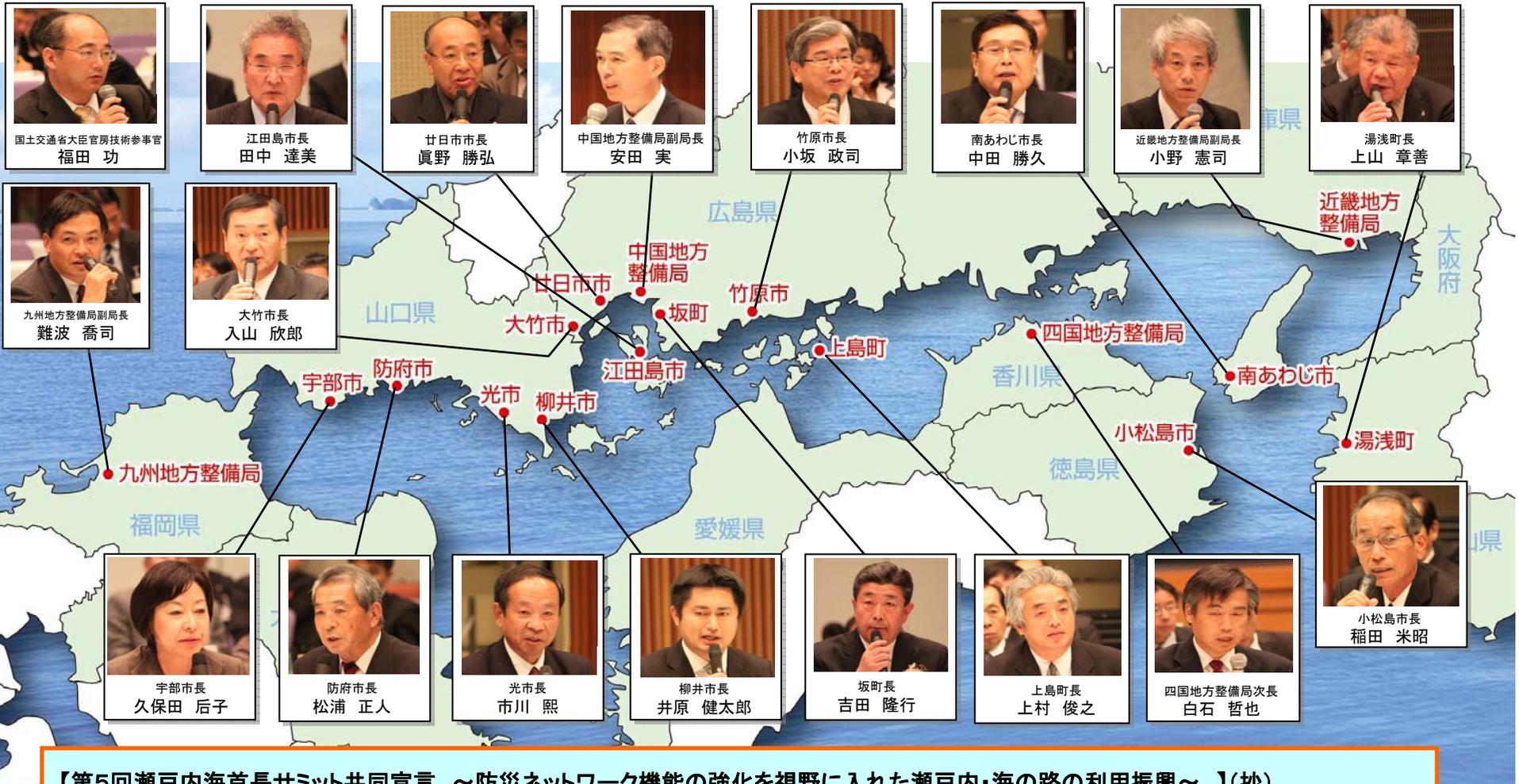
山口県 柳井市長 井原 健太郎

徳島県 小松島市長 稲田 米昭

愛媛県 上島町長 上村 俊之

第5回 瀬戸内海首長サミット 参加者

「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」



【第5回瀬戸内海首長サミット共同宣言 ～防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興～】(抄)

1. 平素から、瀬戸内海の観光振興等を通じて海の路ネットワークの広域的な絆の深化、瀬戸内海地域全体の魅力発信に努めつつ、災害時には平時に構築された有機的な海の路のネットワークを活かして、相互に支援を行うことを目指す。この一環として、瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援協定(海ネット協定)の締結を進める。
2. 多島海である瀬戸内海の特性を活かし、海の路を通じた非常時の緊急物資輸送や患者への医療支援等を円滑に行うため、平素は観光振興や市民の足として利用されているフェリーや旅客船等の多様な利活用についての検討を進める。
3. 今後、発生が懸念される東海・東南海・南海地震等、大規模な地震・津波への対応の一環として、堤防・護岸・棧橋等の諸施設の現状の把握に努めるとともに、必要に応じて所要のハード対策や防災訓練・防災教育等のソフト対策についての検討を進める。